

Ⅲ 研究発表要旨

1. ジャイアントパンダの人工授精から死産にいたるまでの経過について

○兼光秀泰<sup>1)</sup>, 浜 夏樹<sup>1)</sup>, 川上博司<sup>1)</sup>, 大山裕次郎<sup>1)</sup>, 下川英子<sup>1)</sup>, 楠 比呂志<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup> 神戸市立王子動物園, <sup>2)</sup> 神戸大学農学部動物多様性教室)

神戸市では、2000 年 7 月から 10 年契約で中国野生動物保護協会から、2 頭のジャイアントパンダを借り受けている。興興（雄 11 歳）と旦旦（雌 11 歳）は 2003 年から繁殖を試みてきたが、自然交配には至らず人工授精を行ってきた。

当初は精液を採取することも困難であったが、プローブの改良により 2006 年からは雄の造精期には順調に精液を採取できるようになった。

人工授精の実施日は、今まで行動（プレゼンティングの出現）とエストロンのピークの確認を指標としていたため排卵日（推測）の次の日となっていたが、2007 年はエストロンの絶対値、膣スメア、行動を総合的に判断することでエストロンのピークを前日までに予測し、その日に人工授精を実施した。また、今まで人工授精当日には精液採取できなかったが、今回初めて新鮮な精液を採取することができ、雌に注入した。2007 年の排卵日は 3 月 23 日と推測し、当日と 24 時間後、48 時間後の 3 回連続実施した。

その後、繁殖に成功した他園のデータを基に出産日を 7 月 30 日から 8 月 1 日と予測し、8 月 3 日に破水があり、8 月 12 日に死産が確認された。

今回、初めて妊娠に成功した要因は、①プローブの改良により精液採取が容易になり、新鮮な精液を注入できるようになった②スメア、エストロン、行動により推測ではあるが排卵日を予測することができた③トレーニングを強化することにより、スメア採取が容易になったことが考えられる。